第五五師団病馬廠

年月日	概要
昭和九年	編成
一〇七	動員下令せられし
	西部第三三部隊に於て編成完結さる、通称号楢第八四三〇部隊
	編制装備
	廠長　陸軍獣医中尉　宮原登喜太
	獣医将校　名　兵科下士官　名
	獣医部下士官　名　主計下士官　名
	兵　名　衛生兵　名
	馬　乗馬　駄馬
	自動車貨車　獣医資材
	待期
	善通寺東部国民学校に於て教育訓練しつつ待期す
	出征
	南海支隊病馬廠の派出
一一五	第五五歩兵団長を長とする南海支隊編成下令せられ大本営直轄の戦斗序列に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	入らしめらる これが為、南海支隊病馬廠の派出を命ぜらる 陸軍獣医少尉臨濱康和以下15歩兵団長の指揮に入らしむ 主力出征
昭六、二、六	善通寺出発企画を秘めて肅然として坂出港に至り、輸送船伊太利丸に乗船同日出帆す 歩兵第四三連隊は牟野支隊として軍直別行動を採りたるため金馬四匹を配属せしめらる
二、四	仏印
三、八	仏印「ハイホン」に上陸す、直ちに「グワム」河畔に初の病馬廠を開設す 世期の大詔を奉戴し師団は、直ちに、泰国進入作戦を命ぜらる 依って部隊は鉄道並に行軍を以て前進する各隊の輸送行軍病馬の救護収療のため要所に救護所支廠を先遣せしめ、逐次、之を推進せしめつつ「サイゴン」ソハイレン」「プームペン」と前進す
	泰国 日泰同盟成立し、静穏なるを以て、師団は、更に泰緬国突破作戦を命ぜられ、北部泰より緬甸突入を準備す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
一八	部隊は、泰仏印国境を通過
一三	北部国境の町「ラーヘン」に至り開設、現地馬牛の購売を実施す、師団馬衛生は輸送船に於ては、僅か三頭の斃死を見たるのみにして、記録的成績なりしも上陸後引続く輸送行軍のため腺疫流行行軍熱性病続発す、然るに兵站病馬の廠末だ遊離し来らざるため各兵站地区隊救護所に横はる「ヒマラヤ」支脈聳ゆる「ベック」山は樵夫の通ふ道とてなく胆をつく県崖千丈の奈落天を覆う大密林剣へ乾期の陽光の烈しく求むるに水なく加うるに敵国境守備隊は、最初相当に抵抗したるも逃足早く馬部隊の難苦筆舌に絶し大東亜緒戦の華くしさの蔭辛苦を物語る、然れども、此の辛苦ありたればこそ、
二一	「モールメン」陥落し、緬甸に厳然たる地歩を得、敵に準備の隙与へず急追し得たるなり、「ラーヘン」に於て輜馬は駄馬に急変せられ出来得るだけの兵器糧秣資材を駄載し補うに現地「ポニー」牛数百頭を以てす 作戦の要求は如何ともし難しと雖も「モールメン」に於て鞍傷へ殆んど総て力労へのため入厩せるもの壱千頭を突破す、入厩せすして斃れたるもの亦えに過ぎすや 師団は「モールメン」を陥すや息つく暇もなく所在の敵を鉄橋の爆破せられたる「ミッタン」河追いつめ大殲滅戦を展開「ランダーン」より出撃せる敵を「ペグ」に於て、潰滅せしめ「マンダレー」街道を北上急追し

0421

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
四	早くも「トンダー」に至り支那軍の抵抗を受けたるも、強引に、之を落し、「ピンマナ」「メークテーラ」と電撃戦更に自動車追撃に移り、
五 一	「マンダレー」を落とし「イラワジ」河湖行追撃を併用しつつ北劉の「ミートキーナ」に至る
	馬部隊は農物樹潤の乾期の絶頂を進いつつ晝夜の別なく「マンダレー」街道を日射病と蹄葉炎に苦しめられつつ進行軍を続く
二 五	部隊は「モールメン」に開設し、師団主力には前方病馬支廠派せし収療に任ぜしありたるも
	支廠を残置師団主力に追及し、行軍病馬の収療に任す
三	当時第一五軍に属する第一七兵站病馬廠著しく遅延せしため、総軍直轄たる第一二兵站病馬廠支廠来援し
四 九	至り初めて、「トンダー」附近に於て、接触し
四 二〇	「モールメン」支廠の引継を完了したる状況なり、先頭は「ピンマナ」にありて「モールメン」支廠漸く撤収するを得たり
	支廠は回復馬を輸送しつつ
五 雷	「マンダレー」とに追及す
	僅か五〇名の編制にして四〇〇哩の間に二五名に分散せられ五ヶ月に亘り
	一、五〇〇頭以上の収療をなしたるなり、其の困難なるは師団病馬廠戦史未曾有

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	と講ずべし 更に支廠を北上「ミートキーナ」に派す 斯くして緬甸戡定なり「マンダレー」に本廠を「ミートキーナ」に支廠を開設 雨期施設を完備す、第一三兵站病馬廠「マンダレー」に第一八軍馬防疫廠支廠「メークテーラ」に位置す
六月	雨期と共に吾等の最も怖れたる「トリパノゾーマ」病蔓延的に軍直電信隊に発生し、当隊に於て、発見「マンダレー」「ミートキーナ」駐屯部隊に続発し、次て全「ビルマ」に於て発見す 泰緬国境突破以来馬匹の大半を失い師団は過労の回復に邁進しありたるに魔の「トリパノゾーマ」に又もや侵され如何るに、薬物僅少にして、無念なりき 更に第一八師団支那より携行の鼻疽仮性皮疽流行し来る
二二	第一八師団と駐留地を交代せしめられ南下し、「ペグー」に師団司令部を置き下「ビルマ」の豊沃地帯に駐屯す、このとき第一三兵站病馬廠に転送せる「トリパノゾーマ」病馬約二〇〇頭なり、三一号作戦然るに又もや第三三師団一部の占領しありたる「アキヤブ」附近に英印軍来攻し、急急に頻し一八年正月の初未だ解けざるに出動を命ぜられ魔の「アラカン」を越へ敵機乱舞する中を「タンガップ」より大発を以て一週間以上を費し、夜間航行を以て「アキヤブ」

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
二四	に上陸 戦史に誇る「マユ」河畔の大殲滅戦（三一号作戦）を以て多数の図獲品を敵を国境外に撃逐し雨期を「マユデルタ」地帯に於て迎う 本作戦に於て師団は感状を戴く馬部隊は又もや行軍を以て地図もなく土民の案内電話線を目標に二月余を費し遂及す 世界有数の多南地帯にして、昨年の雨期とは比較もならず「チッタゴン」近き迄敵爆音の絶えまなく昼は煙を夜は燈火を管制しつつ住むは部落を離れ夜の放牧（之又放牧柵踏を毎日偽装しつつ）のみにて人馬糧著しく不足し、草刈るも矢力のみなれば困難限りなし イトリパノゾーマ」の流行、過労痩削更に原因不明の腰痿に殆んど馬は全滅の状況にして僅かに図駆戦力ある状況なり 五〇粁をつき草汁すする欠乏の雨期に敵は六ケ師を以て前面に「トーケカ」を築き兵器糧秣資材を大量に集結し一八正月前より早くも蠢動し来る、又敵は盛に「アキヤブ」奪回を時呼して上陸の企画又示す、後方に頼る道なき吾師団は敵に戦力資源を得べく兵器自動車馬糧衛生材料等の蒐集後送班を編成し、約半ケ師団の兵力を以て、乾期未だ至らざる 先制攻撃す、即ち、歩兵団長の指揮する一部を以て、遠く「トンゾベザ」を迂回後方遮断し、敵の一兵をもさす「ミンセイヤ」盆地に多数の戦車重砲を包

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	囲し、五〇〇近き自動車を鹵獲し、正面「ブチドン」より主力を以て斬込猛攻す、然るに敵は、「トーチカ」、殻にこもり、逆日輸送機を以て、燐秡弾薬を補給し、猛砲爆を浴るめず、吾方敵陣の間を縫いつつ、聲力輸送を以て、補給輸送包囲鉄環をゆるめざりしも敵中の戦斗に傷病者続出に旬余に亘る奮斗も空しく歩兵団長以下敵中を突破帰投す、それに追尾する敵をおさえ、一方、「ガラダン」に出撃せる西阿八〇師団を撃滅せしめ雨期迫血線を繰返しつつ、一歩も敵を入れず
	部隊も軍馬蒐集班を編成し、「シンゼイヤ」に於て、交戦（故井上大尉以下八名戦死す）す
	本作戦「ビルマ」方面軍の印度侵入作戦（「インパール」附近）の陽動作戦にして、更に、敵の「アキャブ」奪回を粉砕せしめたるものなり
	功に依り、師団は、感状を載く
	南海支隊「グウム」「ラバウル」占領に偉功を樹て「ニューギニア」に於て、悪戦苦斗再度に亘り兵団長を失いたる南海支隊本年初頭より八号作戦中に、遂次復帰せり、支隊病馬廠も
三	到着せり
五	より始りたる雨期は雨軍の交戦を不能に陥らしめ、我軍亦雨期態勢に入る
六	廠長更迭され宮沢正憲来る

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	過労と欠乏、更に、連日の濠雨に人馬共に病患に侵され戦斗間より、更に多くの損耗を出す、北部「ビルマ」の情況に応じてか、師団は歩兵団長指揮の機支隊を残し
八	より逐次「ヘンサダ」「バセイン」地区に移動す
九 四	我が隊出発、馬部隊の後尾を収容しつつ隆行を以て、「タンガップ」「プロームム」を経て
一二 五	「イエガ」に到着「タンタビン」に本廠を「ショービヤ」に支廠を開設す。師団は本地区に於て休養しつつ「イラワヂデルタ」の防衛に任ず我隊も辺地とはいえ、給与も良好にして病馬廠設備も完備し、駄牛訓練隊を現地人乙部隊を教育し家畜家禽の自給確保等をも併せて行う
三 旬	然るに北部「ビルマ」の戦況刻々に悪化し、師団は二月千城兵団(1126)を神威兵団(554)を出し、更に師団長自ら忠兵団と称して出動し後に歩兵団長の指揮する振武兵団を残留せしめ任務を続行せしむ、我隊は忠兵団に1/3支廠(長(永尾中尉)を出し、振武兵団長の指揮に入る
四 旬	此の秋、突如緬軍背反し盛に我小部隊連絡車を攻撃し来る
	益々敵状悪化し、我兵団孤立に陥るの処あるに至り「イラワジデルタ」を撤退「パタン」附近より「ペグー」山系に入る
	敵機動部隊は遂に「ランゲーン」に突入し、西は「プロームム」をぬき「ランゲ

(446)

0426

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	ーン」に至る、我兵団は「ペクー」山系内にて斬込、之に出血を強要し、第八軍司令部と連絡しつつ第五四師団の脱出到着を待ち、
七、一〇	敵の重圍を排し「シッタン」西原を突破
八、一四	「シャン」高原西側に到着、孫繞「モールメン」に向って南下漸く友軍に連携し得たる時、停戦を聞き全員失心状態を以て、「アパウン」に集結兵器資材を連合軍に渡し、一〇月「マルタバン」附近に移動
二、一〇	「パヤゲ」収容所に入り
二、一〇	「ボロー」に移動す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp